

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成27年7月14日（火）

午後 1時30分 開会

午後 2時21分 閉会

場所： 全員協議会室

[報告案件]

1 豪ポートマッコーリー姉妹都市提携25周年記念公式訪問団の訪豪について

堀敬雄企画部長：資料に基づき説明

質疑なし

2 旅券事務の広域実施について

堀敬雄企画部長：資料に基づき説明

中村宗雄議員：2つ教えてください。美浜町だけ単独でやられるということですが、2市3町でやった時のメリットと、逆に半田市が単独でやった時のメリット・デメリットを教えてくださいということが1点。そして、2点目はクラシティを予定しているということですが、実際どこの場所でどれくらいの面積を占有してこれをやるのか。要するに、以前もクラシティの話をさせてもらったことがあったのですが、24年度、25年度で件数が6,000人程度しか来ないようなこと。一週間でいうと、1日10人来るか来ないかという話で、全然集客性も何も経済効果もないと思うのですが、どれくらいの公共費を使うかという予定を教えてください。

堀敬雄企画部長：美浜町の経緯を説明させていただきます。美浜町は既にこの4月から自分の街の住民課、うちでいう市民課でパスポートの発給事務開始しているということがありまして、この枠組みには入っていただけなかったと。そしてもう一つ、先ほど当初は東浦町さん含めてお声かけしたのですが、東浦町さんはこの枠組みに入らなかったのは、名古屋で発給していただく割合が大府市さんと東浦町さんについては多かったということでありまして。このことに対するメリットですが、先ほど少しご紹介したように、単独でやるよりはおそらく数百万単位の経費の削減ができるということがメリットであります。クラシティでどれだけの面積を使ってやるのかですとか、具体的な負担金の割合をどういう方式で負担するのかということの詳細が集められておりませんので、ただ何れにしろ、私どもでは3パターンほど試算をしておるのですが、概ね半田市にとってはメリットが出るだろう。なおかつクラシティが少しでも人を呼べる形ができるだろうということを経験と考えています。デメリットについては、特に大きなデメリットはないという風に考えています。それから最後の質問のクラシティでの具体的な考え方ですが、現在のところ、まだクラシティで正式にやりますよというフレームが出来上がっておりませんので、クラシティを実施の予定場所としておるという合意の内容になっておりますが、半田市の思惑といたしましては、3階フロアの現在喫茶をやっている位置、あの位置にパスポートセンターが持って来れるのではないかなということで、半田市としては思っておりますが、

これも具体的は、この合意を受けて、事務担当の会議の中で、場所面積等を具体的に決めていくという流れであります。

渡辺昭司議長：先ほど、企画部長からもありましたが、7月24日まで情報の取り扱いだけはよろしくお願ひしたいと思ひます。

3 衣浦臨海鉄道(株)の経営状況について

笠井厚伸市民経済部長：資料に基づき説明

中川健一議員：今期は残念ながら赤字ということなんですけども、これ社長とか役員のうちで何か責任を取ったこととかあるでしょうか。

笠井厚伸市民経済部長：特に責任を取ることはございませんけども、社長の見解では、今後の経営見通しとしまして、今回減少した理由の一つは、ミツカンさんの納豆部門が輸送がなくなって減少したということでありまして、日本コンスターチ株式会社の輸送が船便から鉄道に切り替わるということがわかっておりますので、本年度よりは順次便数も増発をしていくと、経営は改善していく方向にあるという報告を受けております。また、この4月に営業倉庫が完成を致しまして、現在バイオマス発電のチップ等の保管を行っておりますが、それによりまして、今後年間一千万以上の収益が見込まれるということでありまして、全体としましては今後経営は安定していくと予想しているという報告を受けております。

4 半田赤レンガ建物整備工事に係る変更契約について

笠井厚伸市民経済部長：資料に基づき説明

榊原純夫市長：ただいま説明をさせていただきました、変更契約につきましては、6月29日の完了検査をもって、変更額が確定した時点で行わせていただきました。しかしながら、変更契約の可能性について未確定とはいえ、その可能性について、6月議会中の委員会、あるいは全員協議会にてご説明しておくべきであったと、そのことがご理解をいただくには必要であったと思っております、その点ぬかりがあったということで、心よりお詫びを申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

中村宗雄議員：5%以内の800万円以下だったから、専決にすべきだったというのはいいと思うのですが、ルール通りですので。もともと12月の時に4,300万円分、もっとグラウトが入るのだと、根拠を示して言っておきながらというのか、ふたを開けてみれば、それより少ない量で終わってしまった。これは、入れてみなければわからない器に液体を入れているわけですので、それはそれではないかなと思うのですが、ここに出てきている2階の床コンクリートはつり工事とそれに伴うということは、元々これは12月の時点でみえてなかったのか、数字合わせでやっているようにしか僕は見えないような気がしまして、これはもともとどういう工事がそれに伴って出てきたのか、3,000万円分も。その部分明確にご説明をいただけますでしょうか。

堀寄敬雄企画部長：この4月から観光課の方に所管が移っておりますけども、ご質問のところは私ども企画課が所管していたタイミングの工事ですので、私の方か

ら説明をさせていただきます。まず、グラウト量の挿入につきましては、9月補正で増額をお願いしたのですが、その時にもいろいろなご意見をいただく中で、事業者の側に極力細心の注意を払って、グラウトが増量されないような方法をお願いした経緯があります。そのため、清水建設側は、洩れる穴を事前になんか細かく塞いでいただくようなことをしていただいたのと、作業員を増員していただいて、漏れ出た場合に即座に処置するという施工上の工夫をしていただいた経緯があります。また、グラウト剤そのものについても全体のコストが上がることを危惧し、専門的でよくわからないのですが、モルタルに混和剤を使うという形で、グラウトの金額を安価な材料としていただいたという工夫をしております。そのため、当初の見込みよりも、量も少なく終わりましたし、金額も下がったという要因になっております。ご質問にありました、2階のコンクリートのはつりにつきましては、この時点では、事前にわかっていなかったということで2階のコンクリートを一部はつったところで、床に傾きがあるということがわかり、そのために、余計に床をはつらなければならないという形になったものであります。また、もう一つ、レンガの壁の補強工事ということもしておるんですけども、これにつきましても、名古屋大学の調査の時点の図面を基に設計をしておったのですが、途中でレンガとレンガのブリッジがつながっていない空間があるということが工事途中で分かったということで増額となったという風に認識をしております。

新美保博議員：変更契約がある中で、マイナス数字ができてしまったとき 333,000 円だから専決処分にしたというのは初めてのケースだと思うんです。事情はともかく、話の中で、2階の部分だとか1階、このことの説明がやっぱりされていなかったというのは、グラウト注入はしょうがないでしょう。そういうケースでやったし。何が言いたいかというと、当初で 5,400 万円だったんだよね。12月補正で足りないから、9,800 万にしてくださいという話が合って、精算をしたら、4,700 万。当初より 700 万安くなってきた。それでは、元々の設計は何なのという話になってくる。それに関わる施工管理は誰がしてきたんだ。業者としては、申し訳ないけど、やる側としては1円でも高い方がいいですよ。やった分だけのものがもらえる。だから、精算が一番いいに決まっている。だけど、それでは何があってもそこがいけないから直しましょう、あそこがいけないから直しましょうなどと言いだしたら、きりがなくならないか。そういった面からみると、たまたま数字としては 33 万 3,000 円なんだけど、マイナス 5,000 万がおきちゃったからこの3つを足しといて工事を増やして、プラスマイナス概ね0で済ましてしまおうかという帳尻合わせですよ。そういうことにもなりかねないし、現実になっているんだね。その管理は、申し訳ないけど企画部長ができるわけないし、市長だってできないわけよ。そのための施工管理をする施工管理者なり設計者は、それだけのものを本当に中立に第三者的にやったのかというその責任について、管理者である市長はどう考えていますか。

榊原純夫市長：ご指摘の点、その通りであると思いますが、例えばハーフティンバーところ一つにしても、結果としてやれめくって見たら、かなり朽ちている度合が激しかったということもあって、こういう風になったものであります。先ほど

申し上げましたように、確かにご指摘の点、その時点できちんと説明しておくべきだったということは、私どものぬかりだったという風に反省しております。その辺では申し訳なく思っております。

新美保博議員：お詫びはいいんですよ。これはお詫びの事例だから。だからどうするんだとやらなきゃ。ごめんなさいごめんなさいは誰でも言えるんだって。だから次はどうするんだ。今後はどうするんだ。こういう事例はないかもしれないけど、今からどうするかを言わなきゃ。そんな子どもでもできる話だと思うよ。

榊原純夫市長：そうたびたびあるものではないかと思いますが、係る事案がありましたら、その都度きちんとご説明させていただきますので、それは私ども反省すべきであると思っております。

渡辺昭司議長：このことについては、6月29日に正副議長にご報告いただいたときに、また正副議長で副市長に申し入れをさせていただきました。本来、グラウト量がそのまま使用しておれば、この追加の工事の金額というのは補正予算で上げなければいけない金額だったという風に思います。その前に、補正予算でやって、工期も遅れてオープンも遅れて、いろんなきさつがある中でやっぱり報告をきちんとしていただかなければいけなかったのではないのでしょうかということもありまして、そういった申し入れは副市長の方に正副議長でさせていただきました。取りあえず、報告だけさせていただきます。他にございませんでしょうか。

中川健一議員：今の件で、法律的なことだけ一つ教えていただきたいのですが、1ページ目のところに「契約金額の5%以内の変更すること。ただし、その額は800万円を限度とする。」それはいいということなのですが、請負契約という定義の中で、グラウトが減少したということ以外で、このはつる工事とか壁の補強工事というのは、その請負の契約の中に入るという理解は妥当な考えなのでしょうか。

堀寄敬雄企画部長：妥当な考えであるので、このようなご提案をさせてもらっています。

[その他]

・だし丸くんプレミアム商品券について

笠井厚伸市民経済部長：本プレミアム商品券につきましては、6月9日の全員協議会におきましても、ご説明した通り、6月29日から7月3日まで予約受付を行い、7月10日に抽選を行いました。応募総数は1冊1万円から5冊5万円までの各コースの合計、募集合計1万名に対し、21,114名の方にご応募いただきました。多くの皆様にご応募いただき感謝申し上げる次第でございます。応募方法ごとの内訳といたしましてはWebサイトいわゆるネットによる応募が11,196名、金融機関に備え付けの応募用紙による応募が9,918名でございました。抽選は各コースすべて抽選を行い、本日から順次当選通知を郵送いたしております。引き換えは明日15日から7月24日まで行い、未交換者があった場合は、各コースごとに落選者の中から、2次抽選を行う予定としております。なお、プレミアム商品券は申し込みの際、ご記入いただいた金融機関で現金との引き換えとなり

ますが、その際本日お配りをしました「だし丸くんプレミアム商品券取扱店ガイド」のお渡しをすることとしております。なお、ご利用いただける店舗数は7月10日現在で、537店舗となっております。商品券の有効利用期間は、7月25日の土曜日から、10月31日の土曜日までとなっております。利用期間が限られておりますので、ご注意くださいようお願いをいたします。以上でご報告とさせていただきます。

質疑なし

- ・セントラル愛知交響楽団との協定の締結について

小坂和正教育部長：それでは、半田市音楽文化振興に関する協定について、本日口頭で報告させていただきます。後日、協定の締結式の日程など詳細事項が決定しましたら、文書にて資料提供させていただきます。内容について説明させていただきます。現在、本市の音楽文化の振興を図る為、プロのオーケストラ団体であるセントラル愛知交響楽団と協定を締結する準備を進めております。この協定の目的は、市民に質の高い音楽を提供することにより、音楽文化の振興を通じ人づくりやまちづくりにつなげていくとともに、心豊かな市民生活と活力ある地域社会の実現に寄与することを目的としております。セントラル愛知交響楽団とのこれまでの経緯につきましては、平成23年度に同楽団からの申し出を機に本市では24年度から生涯学習課において、ビギナーのためのクラシック音楽講座を開催するなど、同楽団と共同しながら、市民にクラシック音楽を身近に楽しんでもらえる環境を整えてきており、市民に浸透しつつあります。今後さらに音楽文化の振興を図る為、同楽団との共同を進めていくものです。協定の内容につきましては、すでにプロのオーケストラと協定を結んでいる他の自治体の状況なども参考にしながら、講演会事業、小中学校でのワークショップやアウトリーチ事業などを行うものです。なお、協定の締結につきましては平成27年7月中、今月中を予定しておりまして、最終的な日程調整を行っているところです。その締結式には正副議長さんにも出席をお願いしていきたいと考えております。よろしくお願い致します。以上で説明を終わります。

質疑なし

- ・人口問題次世代研究会について

堀寄敬雄企画部長：本日、中日新聞に人口問題次世代研究会という記事を取り上げていただきましたので、少しご説明をさせていただきます。すでにご報告いたしますように、半田市ではまち・ひと・しごと創生総合戦略というものに取り組んでおります。これは、市町の人口が減っていく中で、どうやってこの後のまちづくりをするかという大きなテーマであるんですけども、このテーマについて今私たちが議論していても、もう私たちこの後数年で市役所を卒業してしまうような年齢であります。本当に半田市の人口減少が始まった時に、市の中枢部にいるような年齢の職員に、そこをしっかりと自覚してもらおうという目的で、先ほど申し上げましたこの総合戦略本部の下部組織として、24歳から34歳までの職員20名を選抜しまして、この人口問題次世代研究会というものを作りまして、今後の人口減少に対する施策をみなさんの若い力で考えてください。というテーマで研究会を開かせまして、昨日発表会をやりました。みなさんのお手元に資料が多い

のですけども、AチームからDチームまで4つのチームに分かれまして、それぞれ既定の時間内でプレゼンテーションを行っていただき、最優秀チーム、2位のチームみたいなことをやったのを中日新聞が取材をしてくれて、こういった記事にさせていただいたものであります。私どもとしても、この若い職員からの提言をなるべく多くまち・ひと・しごと創生総合戦略の中に取り込んでしっかりと繁栄させていきたいなという思いであります。以上で説明とさせていただきます。

中村宗雄議員：新聞で読んだだけなんですけど、このさまざまな次世代研究会のアイデアをまち・ひと・しごと創生総合戦略に申請すると新聞に書いてあったのですがそれで正しかったでしょうか。

堀寄敬雄企画部長：申請するというのがどのくらい具体的に織り込むかという議論になろうかと思えますけども、お配りしたアイデアの中には、実は私たちもこのアイデア使えるなと思っておるアイデアもありますので、そういったものについては、きちっと事業の中に盛り込んでいきたいと思っておりますが、それが申請するということの様式に当てはまるほどの事柄かどうかということところはちょっと微妙なところですが、その中に取り上げていきたいというのは繰り返になりますけども、思っております。

中村宗雄議員：わかりにくいものでちょっと確認したいのですが、何を言っているのかといいますと、いろいろな議員さんの一般質問の中で、いろいろなアイデアが今まで出てきたではないですか。例えば、新築の住宅を取得したら補助金出す等とそういうことを議員さんが言われたときに、これは致しませんとはっきり明言されていたということと、これがまた自分たちの検討チームで出てきたことを挙げていくという相反していることをどう私たちは理解すればいいのでしょうか。

堀寄敬雄企画部長：これは、彼らが出してきた生のアイデアそのものであって、これを全て取り上げるという風には考えていません。この中から本当に半田市の施策に合った方向性のものは、しっかりと取り上げていきたいということでもあります。

・知多中部広域事務組合議会について

新美保博議員：2日くらい前だったと思うのですが、消防長から電話がありまして、朝日新聞から取材を受けたということなんですよ。15日、明日消防の組合議会の全協か何かでこのことについては説明するという事だったんですよ。でも、聞くと27年の5月の3日の日のことらしいです。先週、知多中の組合議会は視察に行っているんですよ。消防の広域化と不祥事に対する消防改革ということについていっているんですよ。その時に、5月の3日の日の話なんか、これっぽっちも出なかったし、何が起きているのかも知らなかった。で、急きょ新聞がどういう風に聞きつけたか知らないけど、消防長にインタビューがあつてこういうことになりました。という連絡をもらった。これって、後先というのか、間違えていないですか。普通なら5月の3日にこういうことがありましたという事例は、少なくとも組合からいってそれなりの連絡をしなければいけないだろうし、ましてや、今日でもそうでしょ、半田市議会22人いるわけでしょう。何でここで説明でき

ないの。明日僕らが行って、その説明を聞いて、他の行っていないメンバーに話をこのことをしなきゃいけないのか。だけど受け答えはできないから、指示されても困るわけですよ。中にはそういう質疑がしたい人もいるわけだから、やっぱり当事者が来てどういうことであつたという説明があつてしかるべきと思う。これで全協が15日か16日に開かれるというなら別だけでも。こんなくどい話をする気ないけど。管理者でしょ。市長は。消防署の管理者として、こういった対応は、ありなのかというと、先ほども何かのことでお詫びをしますと、今後こういうことのないようにします。と言っているが、通常でいう専決処分。教育部がやると、建設部。建設部が終わると福祉部。定例会ごと専決処分が出ている。交通事故のことで。絶対一つとして、これはいかんとなっているのかと言ったらとてもなっていくようにはならない。特に、組合議会だから別かもしれないけども、やっぱり管理者は半田市長だから、市長がきっぱり言わなきゃやらなきゃいけないことがやれていないと思いますけども、管理者どうですか。

榊原純夫市長：ご指摘の点に関しましては、管理者としては確かに半田市長ですが、また一部事務組合の管理者という立場であると思っております。そうしますと、確かにご指摘の通り、半田市議会の議員さんにといいこともありますが、まずはすべからくといいますか、組合議会の議員さんにまず報告を申し上げることが順序であるという風に私は判断させていただきました。以上です。

新美保博議員：そうであるならば、この間の視察の時になぜ報告がないのですか。みんなが揃っているときに。本当に委員会というものを重んじているのか知らないけど、やはり各自治体の議会よりも組合議会だから、組合議会の議員に先に言いたいというのであるならば、視察行っている、みんなが集まっているときに、なぜその報告をしなかったのか。本人はいなかったとしても、管理者の代理はいたわけだから。管理者が自分が行ってないから言わないという話ではないでしょう。なぜそれをやらなかったんですか。今頃なんだって話ですよ。

榊原純夫市長：ご指摘の点はごもっともかもしれませんが、まずは全員協議会の場で説明するのが本来であると判断致しましたし、消防長にはそれぞれの市町の議員さんには報告をするようにと指示はさせていただきましたが、確かに視察の時に説明がなかったのは、不手際だったと思っております。

新美保博議員：はっきり言ってください。判断間違えたのか、間違えてないのか。

榊原純夫市長：その時点で分かっていたにかかわらず、指示をしなかったのは私の判断の誤りであつたと思います。申し訳ございませんでした。

石川英之議員：言葉じりを捉えるようで、大変申し訳ないですけども、その時点で分かっていたのですか。僕が消防長から組合議員として、電話で聞いた話によりますと、視察の段階ではわかっていなくて、戻ってきてから朝日新聞からアポがあつて取材を受けたという話をきいたのですけども。先週の月火、6、7日の段階ではもう、消防長は知っていたのですか。

榊原純夫市長：プレスの方から取材の方をしたいという申込みがあるということは私は聞いておりました。ただ、細かい内容については把握してなかったのは事実でございます。

・知多中部広域事務組合の行政視察について報告

石川英之議員：それでは、私総務委員会枠で知多中部広域事務組合議会に出て行っておりますので、先週の7月6日、7日で行ってまいりました視察についてご報告をさせていただきます。現在、消防においては総務省の広域化推進計画による平成30年4月1日を期限とし、広域化の要請を受け、愛知県の計画と照らし合わせた五市五町での広域化を視野に入れて、合わせて職員の不祥事に対する改革についての視察をしてまいりました。初めに6日の午後、滋賀県の東近江行政組合に伺いました。この組合は琵琶湖の南東部の近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町の2市3町で構成され、管内人口は25万3,547人、管内面積は、766.07平方キロメートルで、人口は知多中部とほぼ同じくらい。面積は約7倍と広大ですが、およそ5分の2は、山間部ということであります。この組合の消防長は、滋賀県の広域化推進アドバイザーでもあり、「広域化に関してはメリットばかりです」との強気な発言が耳に残っております。次に、7日の午前に奈良県の生駒市に伺いました。奈良県では消防組織の一本化に向けた協議会の中で、奈良市とともに協議会を離脱し、市単独で消防行政を行っているところであります。広域化に関しては、市の負担が現在より1億4千万円多くなる試算が示されているのに、広域化に見合うメリットが全然みえない。また、運営方法や経費負担などの大事なことを決めないまま、見切り発車でスタートすることに疑問を感じたとの理由で、協議会を離脱したとのことでした。また、生駒市消防本部では、近年職員の不祥事が相次いだことから、副市長をリーダーとする消防改革プロジェクトチームを設置し、リーダー自らが全消防職員と個別面談を実施したり、下部組織にワーキンググループを置き、組織の自浄作用を推進し、改善改革ゼロミッションカードを作成し、全職員に常時携帯させることにより、職員の意識改革を行ってきたとのことでした。午後からは、京都市市民防災センターに訪問し、煙からの脱出や、風速32メートルの強風など、様々な体験を行ってまいりました。以上、ご報告とさせていただきますが、山内悟議員におかれましては、風速32メートルに耐えておりましたので、合わせてご報告させていただきます。

久世孝宏議員：これって、去年まで報告のフォームが何かがなかったのでしょうか。やはり、口頭だけで聞いていても、わからないので。

石川英之議員：常任委員会ですと、半田市に活かせる点とかあるのですがあくまで組合議会の議員としての視察で、視察の報告という形を取らせていただきましたので、私見も含めて一切あの行政視察報告書というのには、いろんな項目があつて、それに当てはまらないと思いましたので、私自ら文書として作らしていただきましたので、それに対して聞きたいことまた、どう思ったということがあればいつでもお答えさせていただきます。以上です。

久世孝宏議員：ただ、やはりですね、口頭で言われて今回はそうかもしれないのであれば、これから組合議会でこういうのがあった場合の報告に関して、それ用のフォームを作ることを議長・副議長の方でも考えて、書けないところは空欄でもいいかもしれないですけども。少し、検討をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

渡辺昭司議長：しばらく休憩します。

午後 2 時 1 7 分 休憩

午後 2 時 2 0 分 再開

渡辺昭司議長：会議を再開します。他によろしかったですか。

（なしという声あり）

ないようですので、これで全員協議会を閉会致します。